

## 読者文壇

風土病(日本・金ヶ崎)

森先 弘

金の風土病で  
なんとかなれへんわざつたら  
俺のおでこー

来る日を来た日を衝突  
来る日を来た日をアルコール  
来る日を来た日をマグロシ  
来る日を来た日をナシホコリ

ある日あんまりじんぐうで  
休んで空氣吸いにゆき  
ふと気がついたら40代

それから

毎日何時でも衝げず  
毎日何時でも呑めんよつて  
毎日何時でも病院通り

肝もり 胃腸 肺結核  
ヘルニア セキツイづれ曲り  
首、肩、背中、腰痛  
筋肉痛 神經痛

こんなにこんどつて痛いのに  
の方女の方などボロのチヨン  
先生云ひたやないか

身元引受人なし  
インターの解ぼう材料  
無縁仏  
ナンマイダ

彼は健康な間港酒荷役、道路下水河川工事、ビルディング住宅建て、資本主義文明建設・開発に骨身をくださました。  
病気になつてからは、病院のモルモットとなり、死んで解ぼうされ、その死体は生前縁の深かつた天王寺動物園の動物達に肉をやつてくれ、と本がのそみ、無縁仏となりました。

四十二才

チリホコリ動物園のエサとなる

## 夜明けの歌 山谷・レギアガ男

本デ 仕事がないんだよ

六時起床  
六時まだ暗い  
早く行かない  
アブしてこまつ  
顔を洗つ水は冷たい  
汚れた作業服  
汚れた地下足袋を  
はいて外に出ると  
十二月の風が  
体を突き刺す如くに吹き抜け  
やけに身に添ふ

六時半ジャスト  
センターの  
シャッターが上かり

ガタガタと  
灰色の空にひびく

仕事を終めている労働者が  
今天的生活の糸口をナゲる  
寒くなると仕事がない  
それでも労働者は  
仕事を求める

今日モ アブレー……か  
コンチキシヨウ——

明日は  
明日の風が吹くか——。

電車から降つて  
山谷だよ 善いだと

八時過ぎに本、てそ  
仕事がない  
仕事があるまで  
オレは  
あきらめない  
今日のメシ代は  
赤銅貨が  
七枚……ハ枚……九枚  
×シモ喰えず  
酒を飲めず  
ドヤ代もない

オレは  
一体 どひすわばりいのだ? 四

だが

一文もなくてモ  
生きぬくぞ

それが  
十三の絆情

ああ

やけに北風が身に添ふのよ……

心の中でつぶく  
オレは平氣だよ  
地下足袋姿のオレだった  
同じ人間……や  
心があらんぢや

差別もない  
労働者の町だよ  
オレはこが今いさうだが  
オレなりに満足している

今日の酒は  
さかじ美味からうす  
ビールに

チューハイ

それにはだま

あつまみは  
ピーナッツにせんべい  
せいたくは出来ないよ

ビーナッツ

ベジタブルス

オレだけの城だよ

人気絶頂の人

ピンク・レディーが

オレに向かって

にっこりと笑えんでくれる

今日は本当に

御苦勞さん

オレは

ヒンク・レディーに

キッスしたよ

明日を朝が早  
オレは早く起  
また明日会わせ  
いつまでみんなの  
元気を送り見たいよ

## 人情

帳

人情といひ言葉がある  
山谷には

どの人情が少なくなった  
だが

人情は

いままだ残っている  
だが

人情は

何時頃だったか  
から……な

人情は

あまり無理になりで  
静着ごろ。体が大事だ

から……な

人情は

わざか交際の中から  
ジユース

コーラ

インスタント・ラーメンなど

買ってもらった

人情は

君の心の中にいるものは

そのままにしておけりで

出かかるてこの言葉は

せんだけの事が  
なにか心に残る  
その言葉の体が  
それが少ない物がある  
学なう事でなく  
その気持だけで  
人情と言つても  
過ぎではない

## 友

友

友だちが欲しければ  
黙つていろ(い)う  
それだけでも  
心と心が通じる  
それが運び  
人情だと運ぶ

## 無題 安川

一、家をなけば

親もない

おのれたよりの

人生経業

明日はさびこり

勤務者渡世

三、たたれた脳の

奥深くへ

まどもにつけて

立ち向ひ

明日もさびこり

出稼者渡世

労務者渡世

おりびきをする性のたわち水か  
同性を愛しつ生きると嘆さう  
カツパ無賴の女(き媚体)

嫌悪の芽生え来たつし男色

理解心渙ぐーの頃恐る

突然ケラケラと笑う友ありて

夏の夜は無意味にふけり人

人信じそのたびごとに裏切られ

未采にわれは何にを信ぜむ

愛するど云う言葉信せ(同様も

踏みにじられかな善意

思ひつきたのが如くに聖書読む

信せんとすれば救われゆくが

裏切られとの日の友へ贈るために

匕首の如き言葉をばがす

ただ一人迷いし君を知らずして

悲しませたうれじき友がな

同性を愛する友の今日もまた  
永続きできぬ現状を見る  
諱いじ後の寂く大音う時  
諱いじまで出でこ言葉をみ込む  
禁欲したやせて動作の美じ微悔さ  
埋れゆく若(さ)を意識して突然に  
扉を開ける人の如くに

## 短歌 無題

夢れかかき虚夢にて思ひけり  
少年の如くに奇声發する  
漱じやを口むが如く同性の

かみくだいて  
のみこんでしまつのです  
それから  
喜ばれめのをあげなさい  
その人は  
きっと微笑んでくれるでせう  
そして  
君と一緒にしてくればのどしゃり

## 俳句 霧三日月

初詣友といひたのすべじ皆  
ひとり身の気安さに馴れ寝正月  
冬モヤ勤め帰りの淋しい音  
冬銀河未完のじル左斜めとす  
空ツ風土工おほかねふけやす  
黒がまづ似合つて冬がはじまりぬ  
蝦夷の庄めりつまた錢零じ  
霧國に仁王立ちとなりてトビの群  
罪の身に寒々の中に坐りけり  
虚無の眼に寒三田月の絶々と

あせのまじで  
三年去つた  
何度もがいて  
はしおうらと  
おもづばかりの  
トヤマひじ

朝の早から タビ着いて  
仕事に有り付くうれしさよ  
その日暮じしの 僕らには  
今日のあぶれが 気にかかる  
弱い風の吹きたまつ  
（二）は大阪 金ヶ崎

今日から歩む 人生の  
道は どんなに つらくな  
捨てちゃいけない 僕なの  
小さく映る その影が  
僕の心を歌つてゐる

（一）あせを流して  
稼いだ金も  
バクチと酒場に  
消えていく  
それでいいのかと  
おろかなおれに  
きかすばかりの  
トヤマひじ

（一）めぐみ 春秋 七つを教え  
今京都に 小さな雨は  
千里はうばる 故郷は遠人  
男のみれんの 浪西  
晴れ軒下 寂通り  
（二）は大阪 金ヶ崎

（一）隣り運命に流れられて  
流出歩いた。その先是  
酔って 転んで 傷付いて  
西成どやの 床の上  
小さな 小屋の 部屋の中  
ひとりやがこく 夜は更けて  
チンチン 雪風が 走り出す

（一）土方海舟は 雨ふりいらぬ  
びつと見つめ 空財布  
細せた舌が ちらちら見えた  
照らしてちようだい 五月様  
暗い軒下 月がどう  
（二）は大阪 金ヶ崎

お前は歌つた  
お前は赤ままの花やとほの涙相を涙つな  
一度は捨てた ことあるさ  
小さな酒場の 片隅で  
弱い男が 今日もまた  
飲んではこぼす言葉さえ  
負け済しい脳のうち  
足のもつれを なんどまう  
歌 中野まる

（一）ここにせばか ごくじか

（一）大空に 手をさ 上げて  
舞ひ散る雲に 勉強を駆ける

お前は歌つた  
お前は赤ままの花やとほの涙相を涙つな  
一度は捨てた ことあるさ  
小さな酒場の 片隅で  
弱い男が 今日もまた  
飲んではこぼす言葉さえ  
負け済しい脳のうち  
足のもつれを なんどまう  
歌 中野まる

## オッサンの死

### 中野浩一

昨日話をしていた友達が  
今日は二つよにそうしない  
一度とおりにやかれないと

セシウー様の部屋の中でオッサンが寒さのために死んだ  
やせたらさかうす紫色に変ってた  
僕にはこのオッサンの死が体液に思えてならない  
一人仕事につく事は一人仕事から女ぶれうどきつたとだ  
腹一ぱい飯を喰ひ奴がいるから喰えない奴が出る

セやには無氣力な者者。認定田当てのなまけ者  
アンコの道をとれてしのシノギ屋などさうゴミが  
あまりにと多過ぎる  
この連中が一いかがり形成を本筋にてとてこ  
ぬくぬくと生き続ける  
弱い人間がいつまで生きを見

どうまづゆきつけ者を輪狂の二十七才  
今さら希望をないけれどこの西成からは出なければ  
僕が居たんじや 一人死ぬ

金がほしくて生きるのか  
友がほしくて生きるのか  
共位かるさか…

それとも自由が欲しいのか！

何であるたは生きるんや！  
何のためにおんたは生れてきたんや！

みんな死めたために生れてきた  
そやけど死んだいもうかわいや、

## 人間の証明

### 杉山一美

オッサン、オバハン、（二）は、あたし〜！

おいでおまはへ庄司へや！  
何のどう生キスへや、  
本物がほかくおべ水やす〜

飲み散らかじ  
喰いちらかじ  
叶き散らかじ  
しつ死んでお食いこうがり  
だれも文句なかうりがり

## 町の哲学者より

昨日話をしていた友達が  
今日は二つよにそうしない  
一度とおりにやかれないと

金がほしくて生きるのか  
友がほしくて生きるのか  
共位かるさか…

それとも自由が欲しいのか！

何であるたは生きるんや！  
何のためにおんたは生れてきたんや！

みんな死めたために生れてきた  
そやけど死んだいもうかわいや、

# 恋の対話(おものがたり) 須 達男

おがる川一雄だつたひ

たへん サーバツしてて

なんで金に困るん……  
ださなと、風呂に入つたいかじり

なんで金に困るん……  
何時でも酒がみたいから

なんで金に困るん……  
ださなと、風呂に入つたいかじり

なんで金に困るん……  
お金の意味になら、どうだいりし理解へあえなかつやア

なんで金に困るん……  
お金の意味になら、どうだいりし理解へあえなかつやア

なんなアホみたいを「とか」  
せせけど、なんで金に困るんやアハ

金田やがた

オーと金に困るん……  
ニヤ」と、と金田と二役きたり 思てんわん……

女では「ハリんと……」「ちみたりな……」  
ウーン……まあな…… 薫道はナア

ああ、ほくじがれは孤独をいやしてはたしない  
せきざまく、てはたしない

市井生活女送てはならぬ  
アルコールと純粋のコンクト、に孤独なままで

ソルクスになりきじわば、ネバ、ネバ、

金田やがた

## 第一回 渡世貴賤入選者の第

詩・雨の一日 よじど水 てんじ

前略 酔つてたわむれに書いた言

葉が一詩、次席一に選ばれていた。

へのあたりが「そばりくて笑つて

こもつた。

そじより、類型的で文部的価値などあるとは思つてもみないが、金の人間のある種の感情がでていると見てくれたのだろう。

ソレで、歌の声を耳めらかに渡世の名聲を高められん事を祈る。

アルコールボケてている俺には、

政治的鬼太的な事はよく解からぬが、お互いに書いたい事を口にする「渡世」の様な本があるのはソレ事だとと思う。

今、本の表紙の通りに、ビールでと飲ま。

せて居て、なんて熟しておつまじたが、よくきくれば、渡世の財政で酒をためるわけではなく、製造業に使わせておくことになりました。有難う。

女足延生オメデトウ

。女ばかり生まれるチョーコーフ、動

物タンパクのどしきか、女の方が力

力的な場合である。——オパーリン

。扉にのせてオオキニ、賞金は

炊出しを繰集のたしにして下さい。

明日からまだ二かの飯場にゆきま

す。

。女足の問題ですが、生化学者オパー

リンはジョーダンで、逆に百姓、山地

の子供は男児が多い。だったら、彼女

ソセンド内食生活を続けたのがモ。

トニカク、女モリリです。日本の品

子、やり子、妻子、産業、悦子、その他、あなたのめさんモスティキではあ

ります。ぼくは男でシャーナーと戻りこります。男なるためにアンノになつ、男になるために金に居たりする」とは事実です。

男である俺は、ポートに賣けて、

酒にもラーメンにさおりつけなんだ

東 達男

寒い夜、

火がない キン玉にぎって いんす。

素雲 箕 ビル暖きさけば だやの

夜は キン玉にぎって いんす。

。ぼり

孤独者、長期刑者はにぎって眠る

習慣なり、我をそのつせり、故に

孤独なり。

①ハイ句とは云わぬが、句とは形

式・会話だとらわざなし身句が強レツメみたい。

みちのくの十和田の山に血を吐いて、一のまま死ねば 我は本望

一大凶桂月一十九キの入りかけた俺

のうたとえらいチガイではすかこり

のカゲモメダカーテのいれそれがた

い 両手でうけろー放ボー